



建築人

2

2019



大阪ホンマもん

建築人

2
2019

目次

2	大阪ホンマもん
4	インフォメーション・事業案内
6	動静レポート
7	Topics
8	Gallery 建築作品紹介 立花町の家 設計 Atelier KISHISHITA 施工 いなせ建設 上野芝の家 リノベーション1期 設計監理 大西憲司設計工房 施工 西友建設
11	記憶の建築 松隈 洋 小国町民体育館 一九八八年 愛着と誇りを育む木質空間
12	建築の射程 近藤健史 市民の創造性を紡ぐ拠点—デザイン・クリエイティブセンター神戸
14	第38回大阪都市景観建築賞（愛称 大阪まちなみ賞）入賞作品
18	理事会報告 建築相談室から 編集後記

社会貢献委員会の活動について

社会貢献部門 部門長
(業務支援担当) 田中 克之



社会貢献委員会業務支援部門では、建築士だけではなく一般の方々からの問い合わせや要望に応える部門です。昨年は、北大地震を以て台風被害について各行政庁からの要望に応える活動をしてきました。部門内には耐震・インスペクション・相談・マンション維持管理・鑑定業務・住宅を設計する仲間達の委員会があり、それぞれの委員会が建築士会所属の建築士のため一般の方々からの要望に応えるべく日々自己研鑽を行うとともに社会に貢献できるよう委員会を運営しております。

それぞれの委員会が様々な実績を上げているのですが活動が見えてこないところが問題点となっています。委員会活動をオープンにすることでより一般の方々が建築士会を活用していただけることが重要なこととなります。

平成最後の年として新しい元号になるときにさらなる委員会の発展をしていきたいと考えます。それぞれの委員会が目標をたてそれを実現していくことが重要と考えます。

大阪ホンマもん解説

写真 田籠哲也 文 牧野隆義

今回取り上げるビルは大阪市福島区の堂島大橋北詰にある莫大（メリヤス）会館だ。

昭和元年（一九二六年）に設立された大阪輸出莫大小工業組合の組合ビルを建設するべく、当時関西建築界の重鎮として活躍していた宗建築事務所設計を依頼した。宗建築事務所の所長であった宗兵蔵氏は東京生まれで、東京帝国大学工科大学造家学科を卒業後、宮内庁に入り帝国奈良博物館（現・奈良国立博物館）の設計に携わった。その後、東京市、海軍省を経て藤田組に入社して経験を積んだ後に、宗建築事務所を開所した。関西を中心に活躍し現存する作品として難波橋や生駒時計店、柴島浄水場（現・大阪市水道記念館）などがある。

建設は大阪橋本組が担い、昭和四年（一九二九年）に竣工した。建物は地下一階・地上三階建てで、構造は鉄筋コンクリート造とされた。その後、昭和十二年（一九三七年）には西側平屋部分を三階建てに増築している。

建物は、道路側に縦長のアール型採光窓を連続して設け、シンプルではあるが細部にはルネサンス様式を取り入れた丁寧なつくりとなっている。しかし戦争により、多くのメリヤス会社が戦災を受けて組合が存続困難となり、テナントビルとなった。

現在は、カフェやギャラリー、建築設計事務所や不動産会社などが入居し、良好な関係を築いている。

改正建築士業務報酬基準説明会

2/20・2/22 CPD2単位

建築士事務所の開設者がその業務に関して請求することのできる報酬の基準(国土交通省告示第15号)改正に伴う説明会を開催致します。

日程・会場・定員

2/20(水) 大阪国際交流センター 300名

2/22(金) 大阪国際会議場 300名

(定員に達し次第締切)

時間 14:00～16:00

受講料 無料

シニアサロン第66回－専門医に学ぶ編－ 貴方の腎臓は大丈夫?!

2/21

腎臓について、日頃疑問に思っていることを、栗原先生が解りやすく説明していただきます。

日時 2月21日(木) 15:30～17:30

会場 大阪府建築士会会議室

講師 栗原陽次郎医師

定員 50名

参加費 会員1,000円 会員外 1,500円

懇親会参加費 5,500円

平成30年度大阪府ヘリテージマネージャー ステップアップ講座第2回 歴史的建造物の構造についての考察と村野藤吾作品見学 in 関西大学

3/9 CPD4単位

関西大学内の村野藤吾作品を見学し、歴史的建造物の構造についての材料実験を西澤研究室で拝見します。

日時 3月9日(土) 13:00～17:00

受付12:30 より

会場 関西大学

定員 50名(申込先着順)

参加費 会員・大阪府ヘリテージマネージャー育成講座受講生 500円

会員外1,000円

村野藤吾作品見学と解説(関西大学構内)

講師 関西大学准教授 橋寺知子

歴史的建造物の構造について(西澤研究室にて)

講師 関西大学教授 西澤英和

見学会終了後懇親会を行います。(希望者のみ)

場所 GB's CAFÉ AREA1

費用 2,500円(予定)

材木屋さんの話／吉野サロン見学

3/9 CPD4単位(予定)

地域委員会建築士の会南河内では和風住宅建築についての講習会を開催します。吉野の材木屋さんのお話を聞いて、木造住宅の新たな発見と可能性を学びます。

日時 3月9日(土) 10:00～15:00

集合、受付 近鉄南大阪線 吉野神宮駅

行程 阪口製材(吉野サロン)、金峰山寺等散策

定員 30名(申込先着順)

参加費 会員1,000円 会員外1,500円

地域委員会(北摂)・国際委員会・シニアサロン・ヘリテージ委員会合同企画 竹中大工道具館見学

3/16 CPD3単位

ヘリテージを支えてきた伝統的な大工道具の実際と建築としての竹中大工道具館を見学します。そして企画展(SOMA 日本の森と素木の家具)も鑑賞します。大工道具や版築などについて、同館スタッフの方々に解説していただき、伝統的な建築技術の歴史と建築の世界に触れたいと思います。その後、旧神戸ユニオン教会(現プロインドリーブ、ウォーリス設計)も見学します。

日時 3月16日(土) 13:00～16:30

会場 竹中大工道具館、旧神戸ユニオン教会

定員 40名程度

参加費 会員・ヘリテージマネージャー1,000円

会員外1,500円 学生500円

(入館料込み)

大阪地域貢献活動分科会 2019年度助成対象活動募集

建築士と地域住民等が連携して進めるまちづくりなどの地域貢献活動に対して、本会が活動費の助成などを行います。

募集締切 3月20日(火)

対象とする活動

原則として建築士と地域住民等で構成する団体が、地域住民等と連携して進める地域貢献活動で、営利を目的としない活動。

助成額 1件の助成額は30万円を限度

木質系大スパン建築物の可能性

3/30 CPD3単位(予定)

木質系大スパン建築物のこれからの可能性を構造・デザインの両面からご説明すると共に、木造でも大スパン建築が十分可能であること等実例を交えてご紹介いたします。

また一般流通材とプレカットを用いることにより経済的かつ合理的に建築された木造建築物について各工法をご紹介しながら解説します。木質系建築の新しい可能性について知って頂き、実務にぜひお役立て下さい。

日時 3月30日(土) 14:00～17:10

会場 近畿中国森林管理局

内容

- 1.大スパン木造の構造デザイン手法と実施例 講師 稲山正弘
- 2.事例紹介1 木質トラス プライムトラス㈱
- 3.事例紹介2 木と鉄の複合梁 パナソニックアーキスケルトンデザイン㈱
- 4.事例紹介3 木造トラス ㈱ATA

定員 80名(定員に達し次第締切)

受講料 建築士会会員1,000円

一般2,000円 学生500円

懇親会費用別途

「柳澤孝彦+TAK建築研究所の仕事」 講演及び堺市民芸術文化ホール 「フェニーチェ堺」見学

～劇場設計の振り返りと2,000席の大ホール
新しいSACAYの文化の始まり～

4/19 CPD3単位(予定)

今年秋、2,000席の大ホールを備えた堺市民芸術文化ホール「フェニーチェ堺」がグランドオープンします。そこで、設計者の「柳澤孝彦+TAK建築研究所の仕事」講演と堺市民芸術文化ホール「フェニーチェ堺」見学を行います。なお、施工者の大成建設㈱からの説明もあります。

日時 4月19日(金) 13:00～16:30

集合 12:45(時間厳守)

堺市役所本庁本館地下大会議室

講演及び見学

テーマ 劇場設計の振り返りと2,000席の大ホール新しいSACAYの文化の始まり

講師 柳澤孝彦+TAK建築研究所

代表取締役 篠田 隆

大成建設㈱関西支店

作業所長 福島浩介

設計者及び施工者等による施設案内説明

定員 50名(申込先着順)

参加費 会員2,000円 会員外3,000円

(資料代含む)

Administration

行政からのお知らせ

大阪市老朽住宅建替え・解体費補助制度

○建替え:古いアパートや長屋等を集合住宅に建替える場合、建替建設費等を補助します。また、「特に優先的な取り組みが必要な密集住宅市街地(優先地区)において、隣地を売買で取得して戸建住宅へ建替える場合、設計費等を補助します。

○解体:優先地区において、幅員4m未満の道路に面する昭和25年以前建築の木造住宅を解体する場合、解体費を補助します。

※重点整備エリアでは要件緩和あり

■大阪市ブロック塀等撤去費補助制度

道路等に面した一定の高さ以上のブロック塀等の撤去費、撤去後に新設する軽量フェンス等の設置費を補助します。補助限度額は撤去20万円、新設30万円(2019年度以降は撤去15万円、新設25万円)。補助率は2/3(2019年度以降は1/2)。

問合 大阪市都市整備局耐震・密集市街地整備

Tel.06-6882-7053

豊中市木造住宅等除却費補助制度

豊中市では、庄内・豊南町地区の木造住宅等の除却費の補助を実施しています。

対象となる建物 昭和56年5月31日以前に建築された木造の建築物

制度運用期間(予定)

平成30年4月2日(月)～平成31年3月29日(金)

その他、補助率、補助限度額、対象となる区域、申し込みの詳細については、豊中市のホームページで「除却費補助」と検索してください。

Others

その他のお知らせ

関西住環境デザインレビュー2019 第3回関西住環境系学科合同講習会2019

2/16

「関西住環境デザインレビュー」は、関西圏の住環境系の学生が、作品発表を通して互いに刺激し合い自己研鑽に励む場であると共に、教員が時代の要請に応える新しい住環境教育の構築に向けて計画・設計教育方法を検討する場です。講習会の具体的な対象は、学部二年生後期の集合住宅の設計課題です。各大学の専任教員だけでなく、非常勤講師として教育に携わる建築家の方々にも賛同をいただき、ゲストジュリーとして参画いただきます。

主催 関西住環境系学科合同講習会実行委員会

日時 2月16日(土) 13:00～17:30(予定)

会場 奈良女子大学記念館 2F 講堂

奈良市北魚屋西町

観覧料 無料

ゲストジュリー(参加予定)

赤木 隆 ㈱日建設計

梅原 悟 UME architects

星田逸郎 ㈱星田逸郎空間都市研究所

橋口新一郎 ㈱橋口建築研究所

白須寛規 design SU 一級建築士事務所

三宅正浩 ㈱y+M design office

岸 研一 ㈱岸研一建築設計事務所

加藤亜矢子 ムトカ建築事務所

ジュリー(参加予定・専任教員)

久富敏明 摂南大学理工学部

稲地秀介 摂南大学理工学部

榊 愛 摂南大学理工学部

大橋 巧 摂南大学理工学部

大場 修 京都府立大学生命環境学部

河合慎介 京都府立大学生命環境学部

松下大輔 大阪市立大学生命科学部

小伊藤亜希子 大阪市立大学生命科学部

藤田盟児 奈良女子大学生生活環境学部

長田直之 奈良女子大学生生活環境学部

室崎千恵 奈良女子大学生生活環境学部

問合 奈良女子大学 長田直之

nagata@cc.nara-wu.ac.jp

Sponsorship

建築士会からのお知らせ

既存建築物耐震診断等の評価・評定

本会では、「建築物の耐震改修の促進に関する法律」の改正に伴い、建築構造の学識者や実務者で構成する「建築物耐震評価委員会」を組織し、平成26年1月より建築物耐震評価業務を実施しております。

不特定多数が利用する施設や沿道建築物など、申込者が検討した建築物の耐震診断及び耐震補強計画について、専門的観点のもとに審査・審議を行い、妥当であると認める申込案件に対して評価書を交付します。

スピーディな審査を心掛けておりますのでどうぞ活用ください。

(業務内容)

- 耐震診断報告書の審査、評価
- 耐震補強計画案の審査、評価等

(対象建築物)

公共・民間等の建築種別、用途、規模、構造種別は問いません。また、他府県の建築物も対象としております。

(会員特典)

申込者又は診断等実施者が本会会員の場合は、評価手数料の10%割引があります。

詳細は、本会ホームページをご覧ください。

平成30年度監理技術者講習 (監理技術者以外の方も受講可能) 2/6、3/6 CPD各6単位

本講習会は建設業法に基づく法定講習であり、建築に特化したテキストを使用し、経験豊富なベテラン技術者の講師による解説と映像で、実務に役立つ情報を提供いたします。なお、監理技術者以外の建築士や技術者の方も受講が可能です。日頃の工事監理業務に役立ちますので、ぜひご受講下さい。

日程 2月6日(水)、3月6日(水)

時間 8:55～17:00

会場 大阪府建築士会会議室

定員 各回30名(定員に達し次第締切)

受講料 WEB申込み9,500円
郵送申込み10,000円

申込 日本建築士会連合会ホームページよりお申込みください。

http://www.kenchikushikai.or.jp/torikumi/news/2015-07-28-2.html

建築士法にもとづく建築技術講習会 総合図作成ガイドライン解説 2/13 CPD2単位

日本建築士会連合会が作成した国土交通省官庁営繕部推奨の総合図作成ガイドラインは、施工図作成段階での納まり等の調整と、関係者間における調整に非常に有効です。

本ガイドラインのDVDによる講習を行います。

日時 2月13日(水) 18:00～19:45

会場 大阪府建築士会会議室

定員 60名(定員に達し次第締切)

受講料 建築士会会員 5,000円
後援団体会員 6,000円
一般 7,000円

※総合図作成ガイドラインの代金3,000円(特別価格)を含む

建築士法にもとづく建築技術講習会 木造ホテルの耐震改修講習会 一志摩観光ホテルと奈良ホテル 2/19 CPD3単位

木構造の第一人者である京都大学の五十田教授を講師にお招きし、中大規模木造建築の耐震診断・補強設計の留意点について解説していただきます。

続いて外国人旅行者に人気のある村野藤吾設計の志摩観光ホテルと辰野金吾設計の奈良ホテルを取り上げ、それぞれの耐震補強設計と耐震改修工事の手法について、設計者から説明していただきます。

日時 2月19日(火) 14:00～17:15

会場 大阪府建築健保会館

定員 120名(定員に達し次第締切)

受講料 建築士会会員 3,500円
後援団体会員 4,500円
一般 5,500円

建築士法にもとづく法定講習会 平成30年度建築士定期講習 2/21、3/18、3/29 CPD各6単位

建築士法の規定により、建築士事務所に所属するすべての建築士は3年以内ごとに定期講習を受講しなければなりません。本年度は平成27年度に本講習を受講された方や、建築士試験に合格された方が対象となります。未受講者は懲戒処分の対象となりますので必ず年度内に受講してください。

日程・会場・定員

※2/21(木) 大阪国際会議場 300名
3/18(月) 大阪国際交流センター 200名
3/29(金) 大阪府建築健保会館 90名

時間 9:25～17:00(各講習日共)

受講料 12,960円(消費税込。事前振込)

申込書配布場所 大阪府建築士会及び大阪府建築士事務所協会事務局又は、建築技術教育普及センターHPからダウンロード(平成27年度受講者には、直接申込書を郵送しています。)

申込方法 上記事務局へ持参又は簡易書留による郵送。

受付場所(送付場所) ※印の日程 大阪府建築士会事務局
※印以外の日程 大阪府建築士事務所協会事務局

建築技術教育普及センターHPからWEB申込みも可能です。

https://jaeictkosyu.jp/jaeictaikikosyu/

(注)各回定員に達し次第、受付を終了します。

建築士法にもとづく建築技術講習会 中大規模木造設計セミナー 2/28 CPD4単位

「公共建築物の木材利用促進法」が2010年に施工され、低層の公共建築物などは原則として木造化、木質化することが義務付けられました。本セミナーでは、文部科学省の「JIS A 3301 木造校舎の構造設計標準」に基づき、流通材と住宅用の一般的プレカートを活用することで鉄骨と価格的に競合でき、意匠設計者であっても比較的容易に中大規模の木造建築物の設計が行える設計指針を解説いたします。この指針は、校舎をはじめ福祉施設、倉庫、事務所など一般用途の施設の設計も対象としていきます。なお、本セミナーはDVDによる講習となります。

日時 2月28日(木) 13:00～17:10

会場 CIVI北梅田研修センター 505号室

定員 60名(定員に達し次第締切)

受講料 2,000円

建築士法にもとづく建築技術講習会 大江一夫の設計術を学ぶ 一夙川から六麓荘の実作を巡りながら 3/16 CPD3単位

多数の賞を受賞されている建築家 大江一夫氏の作品を巡る見学会を開催致します。

本見学会では、夙川駅近辺にある複数の作品を巡るだけでなく、一部作品の内覧や大江氏の話を直接お伺いすることができる時間を設けております。

日時 3月16日(土) 13:00～16:00

集合場所 阪急夙川駅南口

定員 30名(定員に達し次第締切)

受講料 建築士会会員 3,000円
後援団体会員 4,000円
一般 5,000円

建築士法にもとづく建築技術講習会 災害時における事業継続が可能な建築物の対策 3/26 CPD3単位(予定)

災害時に命を守ることはもちろんですが、その後速やかに復旧を行い、業務を継続できることが、これまで以上に重要となっています。そこで事業継続計画(BCP)の重要性や災害後の事業継続に向けた建築物対策について第一線で活躍される学識経験者、設計者、実務者の方々を招いて講習会を開催します。

日時 3月26日(火) 14:00～17:30

会場 大阪府建築健保会館

定員 150名(定員に達し次第締切)

受講料 建築士会会員3,500円
後援団体会員4,500円
一般5,500円

平成30年度大阪府ヘリテージマネージャー スキルアップ講座 地域の歴史ある風景を守る ～歴史的建築物の保存活用～ 2/3 CPD3単位

歴史的建築物保存活用とヘリテージマネージャーの役割、文化財保護法の改正などをテーマに講演およびパネルディスカッション(京都市、神戸市の事例紹介など)を行います。

日時 2月3日(日) 14:00～17:00(予定)

講師 工学院大学教授・理事長、全国ヘリテージマネージャーネットワーク協議会運営委員長 後藤 治
京都市建築指導課企画基準係担当係長 林 歆太郎
神戸市景観政策課調整担当係長 柏木孝之

会場 大阪府立中之島図書館本館

定員 60名(申込先着順)

参加費 無料
※1月号では有料でご案内しましたが無料になりました。

平成30年度大阪府ヘリテージマネージャー ステップアップ講座第1回 「歴史的都市性の価値を保全する変化」 2/14 CPD2単位

ヘリテージとセットである歴史的「景観」の持続可能な変化について、神戸芸術工科大学環境デザイン学科の小浦久子教授に講演いただきます。

日時 2月14日(木) 18:30～20:30

講師 神戸芸術工科大学教授 小浦久子

会場 大阪倶楽部3号会議室

定員 50名程度(申込先着順)

参加費 会員・大阪府ヘリテージマネージャー育成講座受講生500円
会員外1,000円

建築士の会 やお・かしわら+東大阪 八尾市立「志紀おおぞらこども園」 見学会 2/16 CPD2単位

園舎の中央に2層吹き抜けのランチホールを配し、吹き抜けの上部には室内から空を感じられる高窓が設けられています。広がりを感じる園舎とすることで、園児の伸びやかな成長を促す造りとされています。是非ご参加ください。

日時 2月16日(土) 受付10:00～
見学 10:30～12:00(予定)

集合 志紀おおぞらこども園玄関前
八尾市志紀町西2-1-10

最寄駅 JR大和路線志紀駅(下車徒歩約13分)

参加費 会員1,000円 会員外1,500円

定員 30名(申込先着順)

設計・監理 (株)東畑建築事務所 大阪事務所
施工者 (株)三栄建設

会長動静

- 12/28 連合会会員増強会議
- 1/ 4 在阪建築 15 団体新年交礼会
- 1/ 9 大阪府収用委員会
- 1/10 日本建築材料協会賀詞交歓会
- 1/11 総務企画委員会（連合会）
- 1/14 総合資格学院建築士合格祝賀会
- 1/15 大阪都市景観建築賞表彰式
大阪府宅地建物取引業協会新年会
運営委員会
- 1/16 理事会・正副会長会議
- 1/17 理事会（連合会）
- 1/21 箕面副市長面談
- 1/22 大阪府宅地建物取引業協会式典
- 1/23 摂津市長面談
理事・監事候補者推薦委員会
大阪府建築士事務所協会新年会
- 1/26～28 上海建築学会訪問

* 連合会：（公社）日本建築士会連合会



（右）
柿谷武志
箕面副市長



（右）
森山一正
摂津市長

運営部門

建築士試験受験資格審査方法の見直し

平成 30 年 12 月 14 日公布の改正建築士法により、法律で定める実務経験がなくても、建築士試験の受験が可能となります。例えば、一級建築士の場合、大学（4 年）卒業後すぐに受験することが可能となり、学科及び製図試験合格後、2 年以上の実務経験を積むことにより、一級建築士の登録ができます。また、現在二級建築士の方は、実務経験が無くとも一級建築士試験が受験でき、学科及び製図試験合格後、実務経験を取得すれば、一級建築士の登録を行うことが可能となります。この改正は、平成 30 年 6 月 5 日に日本

建築士会連合会他建築 2 団体が、国土交通省に対して要望した「建築士資格制度の改善に関する共同提案」が取り上げられ実現したものです。改正の背景には、一級建築士は全国で約 14 万人に上り、そのうち 6 割強が 50 歳以上であるという高齢化現象と、平成 19 年に比べて平成 28 年の受験者数が約 4 割減少しており、若い世代が建築界に入りやすい環境を整えて活性化を図ることが目的です。改正建築士法運用の時期は 2020 年を予定しており、登録事務の窓口である全国の各建築士会においてスムーズな対応ができるよう、今後、申請時の実務経験の審査方法等の課題について検討する特別委員会を日本建築士会連合会内に設置し、国や都道府県と協議を進める予定です。

研修部門

設計業務等の業務報酬基準の改正及び説明会

1 月 21 日に業務報酬規準が 10 年ぶりに改正され、公布・施行されました。

この改正は、平成 29 年 3 月 24 日に日本建築士会連合会他建築 3 団体が、国土交通大臣に宛て、近年の建築物の設計業務や工事監理業務の多様化・複雑化、発注者からの要求水準の高まりなどに伴う設計・工事監理業務量の増加などを踏まえ、業務報酬基準改正の要望を提出したことにより実現したものです。

改正の内容は、設計業務や工事監理業務に関する直接経費と間接経費の割合の見直し、複合建築物の業務料の算定方法、基本設計・実施設計・意図伝達の業務料比率の設定、業務報酬算定に用いる「略算表」の見直し、「総合」「構造」「設備」の難易度係数の設定、「標準業務」と「標準外業務」の内容の明確化等、多岐にわたります。

改正説明会は、日本建築士会連合会が国土交通省から受託し、全国の建築士会において開催します。大阪では、本会が同説明会を 2 月 20 日・22 日の 2 回、参加費は無料、600 名の規模で開催します。詳細につきましては、本誌同封の案内や本会ホームページをご参照いただき、ご参加下さい。

社会貢献部門

枚方市における罹災証明書発行調査の支援

昨年 6 月 18 日の大阪北部地震及び、9 月 4 日の台風 21 号による枚方市の罹災証明書発行調査に、これまで本会の会員建築士延 209 名を派遣しました。

本会が行った調査数は、地震による 1 次調査判定 2,166 棟に対する 2 次再判定申請と、台風被害申請の合計 205 棟です。損害程度は全壊 5 棟、半壊 17 棟、その他は一部損壊と判定され、現在、調査はほぼ完了しています。罹災証明書発行のための調査は、まず建物の現況図を作成し、内閣府の調査基準により建物内外各部位の被災状況を詳細に確認するもので、建築の知識を持つ建築士が行うことが、最も相応しいと考えます。今回の枚方市における調査は貴重な経験であり、習得した調査方法等をマニュアルとして取りまとめ、今後の災害に備える予定です。

社会貢献部門

市町村が主催する消費者セミナー・相談会への会員派遣

大阪府の各市町村では、増加を続ける空き家の対策や住宅の耐震性能向上を図る一環として、市民を対象とした、安心して利用できる中古住宅流通や住宅リフォームに関する消費者セミナー及び相談会を、建築、不動産、法律、金融等の専門家を講師に招き開催しています。

本会では主催する市町村からの依頼により、社会貢献活動の一環として、相談委員会やインスペクション委員会等に所属する委員を、セミナーの講師や相談員として派遣しています。

本年度はこれまで、11 月 4 日に高槻市主催の「空家の管理・活用セミナー及び個別相談会」、11 月 25 日に大阪市阿倍野区、生野区、住吉区、西成区合同開催の「空家の管理・活用セミナー」、12 月 3 日に和泉市主催の「バリアフリーと災害に強い住まいづくり」に講師と相談員を派遣し、空家管理やリフォームのセミナーには約 50 名の受講があり、消費者の関心の高さが伺えます。現在、貝塚市、柏原市、豊中市から派遣依頼が来ており、今年度内の派遣を予定しています。

「環境型都市づくり講演及び大阪府立大学研究推進機構植物工場研究センター視察」報告

日程：平成30年11月30日（金）14：00～17：00 会場：大阪府立大学研究推進機構植物工場研究センター 参加者：50名

北野哲也（地域委員会「堺・高石」委員）



建築士の会「堺・高石」では、堺市及び高石市域内の会員が地域に根ざした活動を行っています。今回は建築やまちづくりに携わる建築士として環境型都市づくりを勉強し、都市における新たな役割を探るとともに、様々な分野の方との交流を目的に当講演と視察を開催しました。講演では、センター長である増田名誉教授から環境型都市づくりに求められる目標像として「環境重視型社会」、「コンパクトシティ」、「安全・安心のまちづくり」、「ストックの継承と蓄積」、「地方分権型社会」、「生活主体型社会」、「人間性の回復」、「協働の視点」、「マネジメント型社会への移行」、持続的まちづくりを進めるランドスケープからのアプローチ（プロセスプランニング「シナリオ型計画づくり」）として、「地域を読み解く」、「地域課題と目標像の共有」、「具体的な

空間像の実現とプログラムの構築」、「つくり続ける」、そして「地域を読み解く（地域の調査、分析、評価）」へと繋がるとの説明と示唆を頂きました。その後、植物工場研究センターを増田教授とセンター職員さんの案内で視察しました。参加者は、建設業、サービス業、行政、大学など、職種は企画、設計・施工、営業、公務員、学生など、様々な分野の方で、各々の専門的な知識から活発な質疑応答が行われました。また、懇親会は、増田教授やセンター職員さんも参加頂き、名刺交換、自己紹介からの話題提供など、楽しい情報交換ができました。建築やまちの未来に向けて、建築士は様々な分野の方と協働で新たな役割を果たさなければならないと思いました。増田教授やセンター職員さんをはじめ関係者及び参加者の皆様ありがとうございました。



建築技術講習会『建築物省エネ法実務講習会＋環境建築見学会』

日程：平成30年12月10日（月） 会場：コイズミ照明 R&D センター 参加者：54名

永井 務（理事）



建築物省エネ法が2017年4月に全面施工され、大規模非住宅建築物の新築などで省エネ基準への適合が義務化となりました。国などによる完了検査マニュアルも2018年2月に発行され、対象建築物の建築確認、完了検査も始まっています。今回は、建築物省エネ法や省エネ適合性判定に関する書式・様式の説明、検査のポイントなどを、大阪府住宅まちづくり部建築指導室審査指導課の担当者を講師とする建築物省エネ法実務講習会を第Ⅰ部に、また休憩をはさんで、大阪府の環境緑化関連表彰にてトリプル受賞したコイズミ照明 R&D センターの設計を担当した竹中工務店大阪一級建築士事務所の担当者を講師とする環境建築デザイン講演会を第Ⅱ部とし、第Ⅲ部として会場を提供いただいたコイズミ照明から館内見学会を開催いただく3部構成でした。

「環境デザインってどうすればいいの？ どういう建物を目指すの？」
「省エネ適合性判定には、何を書いたらいいの？」
「工事監理はどうすればいいの？」
「完了検査では何を検査されるのか？」
と新たな仕組みに対する、一連の実務の流れを半日で体験いただけるよう、従来それぞれで開かれていた講習会を、会場自体を都心の会議室ではなく、環境表彰を受けた建物で連続して実施する試みでしたが多くの方々に参加いただきました。今後も、このような講習会を企画させていただきたいと思います。第Ⅰ部の実務講習会は、丁寧な講義にあわせ、実務に役立つしっかりとしたマニュアルが配布されました。続く第Ⅱ部では環境配慮設計手法だけでなく、先端のワークプレイスを働く方々と一緒に設

計したプロセスの説明があり、第Ⅲ部の見学会では、それによって作られた緑があふれ吹抜けが各階をつなぐオフィスにて、コミュニケーションが深まっている様子を直接目にすることができました。この講習会を受講された方々により、多くの環境にやさしい建築が生み出され、2025年に向けて、大阪が緑のあふれるまちなみになればと思います。





古くからの街区が残り、細い道が網の目のように入り組んだ密集地に建つ木造2階建ての住宅である。決して良好とは言えない周辺環境に対して無理に開くことは選択せず、周辺からの視線はコントロールしつつ陽光と通風を確保するための空間として、1階の中庭や2階のウッドデッキスペースを設けた快適な住空間を目指した。外観に表出された閉鎖感とは内部空間における安心感の現れであり、家族（夫婦と子供2人）を護る器としての建築が素直に構築された結果でもある。遮りつつ繋がり、繋がりつつ遮る。ゆっくりと家族の時間を重ねながら、その「あわい」に「豊かな日常」が醸成されることを期待している。（岸下真理+岸下和代）

所在地：大阪府東大阪市
用途：専用住宅
竣工：2018.05
構造規模：木造2階
敷地面積：129.54㎡
建築面積：52.18㎡
延床面積：84.06㎡
プロデュース：アーキソシエツ
写真：網巻 豊



建物は、堺市の「百舌鳥・古市古墳群」世界文化遺産国内推薦に含まれている履中天皇陵に面している。東側の購入された住宅と今住んでいる住宅をブリッジで繋ぎ、プライベート棟と、パブリック棟に分け、御陵の緑と水や風など、季節の移ろいを感じながら暮らせる家族4人のリノベーションである。住みながら工事が出来るように、1期・2期に分けて進めた。完成した1期工事のパブリック棟は、1・2階共南側を全面開口部にして、御陵の景色を取り込んだ。1階は、広いデッキテラスを介してリビング・ダイニング・キッチンの一室空間と水面が繋がる。又、2階の洗面・浴室・からの眺めや、夕日を楽しむことが出来る。引き続き2期工事が始まっている。

構造監理：天野一級建築
構造設計事務所
所在地：大阪府堺市
用途：専用住宅
竣工：2018.09
構造規模：鉄骨造
地上2階
敷地面積：176.53㎡
建築面積：63.97㎡
延床面積：130.53㎡
写真：福澤昭嘉

第11回 建築人賞

主催：公益社団法人 大阪府建築士会

第11回建築人賞の審査委員長は、乾 久美子氏に決定いたしました。

公益社団法人大阪府建築士会では
本誌「建築人」の Gallery に掲載された建築作品を対象に
社会性、芸術性、時代性を考慮して、顕彰、公表することにより
建築技術の進展、建築文化の向上に資することを目的として
建築人賞を実施しています。

■ 審査委員長 乾 久美子



1969 大阪府生まれ
1992 東京藝術大学美術学部建築科卒業
1996 イエール大学大学院建築学部修了
1996～2000 青木淳建築計画事務所勤務
2000 乾久美子建築設計事務所設立
2000～2001 東京藝術大学美術学部建築科常勤助手
2011～2016 東京藝術大学美術学部建築科准教授
2016～ 横浜国立大学大学院Y-GSA教授

■ 表彰（設計者に対して）

建築人賞 （賞状と記念盾）

建築人賞奨励賞（賞状）

※建築主・施工者には賞状授与

■ 第11回 対象作品

「建築人」2018年1月号から2018年12月号まで
Gallery に掲載された建築作品

※建築種別、建築地を問わない。但し、竣工検査済証を受けたもの

■ 受賞発表

建築人 2019年7月号誌面（予定）

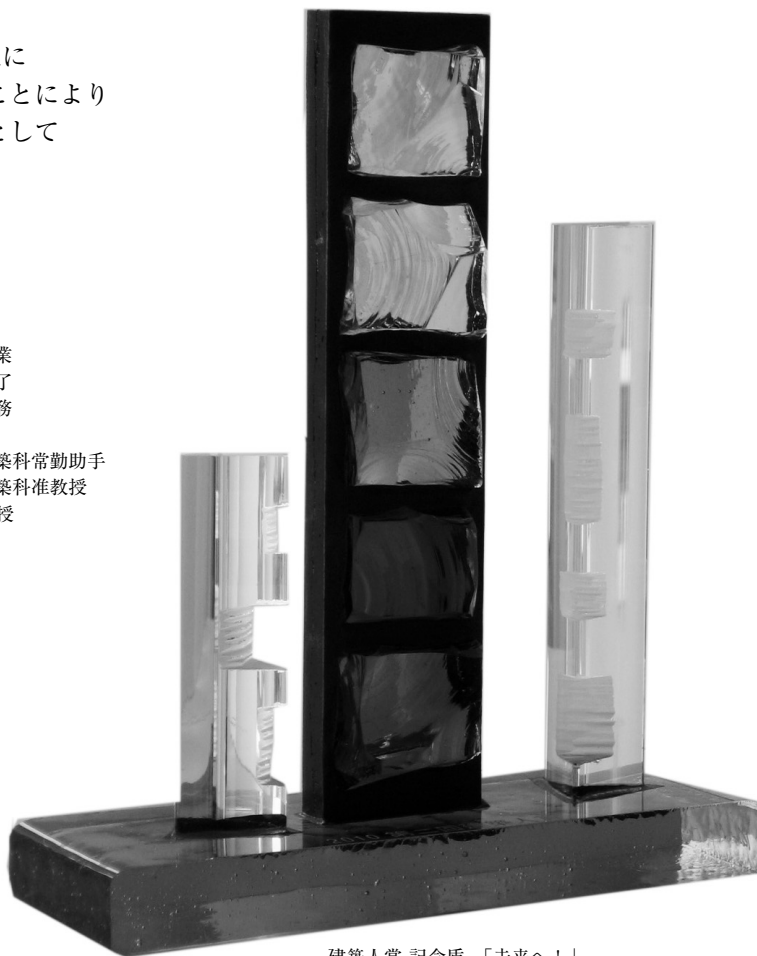
■ 問い合わせ

公益社団法人大阪府建築士会「建築人賞」係

担当／母倉 政美

TEL 06-6947-1961

FAX 06-6943-7103



建築人賞 記念盾 「未来へ！」

ガラスアーティスト 三浦啓子作

『建築人』 Gallery 掲載作品 募集中 2018

会報誌『建築人』では、Gallery に掲載する作品を
募集しています。

【掲載料】

カラー 2ページ 20万円

カラー 1ページ 10万円

詳しくは、公益社団法人大阪府建築士会『建築人』
Gallery 建築作品掲載係まで。

時が経つのは早い。二〇一八年十一月、私事ながら四半世紀ぶりに、熊本県最北端の阿蘇外輪山の北側に位置する小国町に建つ、この町立の体育館を再訪する機会があった。前回訪れた一九九三年は、おりしも、細川護熙熊本県知事の下で、磯崎新をコミッショナーに迎えた「くまもとアートポリス」という新しい形の公共建築事業が注目を集めていた。それらの建築群を見てまわる際に、先行する興味深い公共施設として見ておきたいと立ち寄ったのである。

一九八八年に始まったアートポリス事業は、篠原一男の熊本北警察署（一九九〇年）を皮切りに、山本理顕の熊本県営保田窪第一団地（一九九一年）や、伊東豊雄の八代市立博物館・未来の森ミュージアム（一九九一年）、トム・ヘネガンらの草地畜産研究所畜舎（一九九二年）など、熊本県や市町村が事業主体となる公共建築にとどまらず、民間の妹島和世の再春館レイ・スレジデンス（一九九一年）まで、バブル経済の勢いもあったのだろう、わずか数年の間に三〇を超える斬新なデザインの建築が次々と誕生する公共事業として関心が高まっていた。そんな中、それぞれの建築で何が試みられ、どのような風景が生み出されたのか、現地を見て回りながら広く考えてみようとして、『建築ジャーナル』（一九九三年九月・十月号）で特集が組まれた。そこで、道先案内を九州芸術工科大学の専任講師に着任したばかりの藤原恵洋さんをお願いし、『同時代の建築』（青土社一九八八年）の著者で哲学者の宇波彰（明治学院大学教授）さんと、中川理（京都工芸繊維大学助教授）さん、担当編集者の山口真実さんと五人で、十五件ほどの建築を駆け足で巡り歩いた。前川建築設計事務所勤めていた遠い昔のことである。

当時の誌面には、アートへと大きく踏み出した実験的な公共建築への違和感をめぐる生々しい議論が記録されている。一方で、そうした前衛的な建築群とは対照的に、熊本大学教授だった延藤安弘さん（一九四〇～二〇一八年）が、地元の仲間たちと自らの提唱する「集まって住むこと」を実践したコーポラティブ・ハウスの、もやい住宅Mポート（一九九二年）を訪ねた際のやり取りも収録されており、個人的にも感慨深い。アートポリス事業は、その後もコミッショ

木立の深い緑に抱かれたステンレス鋼板で葺かれた銀色に輝く丸い屋根が見えてくる。大地に臥せったようなその形と、正面のガラスの開口部が六〇度傾いているために、内部の様子は外部からはうかがいにくい。けれども、一歩中へ足を踏み入れると、その印象は一変する。約六〇〇〇本の小国杉の間伐材をスチール製のジョイント金具で組み上げた木造立体トラスのドーム状の天井が、優しい質感でアリーナ全体を包み込んでいる。そして、アリーナの正面には、

「木造立体トラスは、スチール同等の自由な表現、大架構を初めて可能にした。寸法精度は、スチール以上であり、軽く、結露しにくく、スチールと違って生産するのにエネルギーを消耗することもない。木材がスチールを、代替することの意義は社会的、経済的に、精神的にあるかも知れない。」（『新建築』一九八八年八月号）

また、続く文章で、当時としては珍しかった木材という自然素材を用いたことの意味について、次のような言葉を記している。

「光や風、そして自然の素材は、いつも、私にとって新発見の喜びを与えてくれる。（中略）明治以来の脱亜入欧、和魂洋才とか、脱近代とか、それまでの価値基準や体系を解体してつき進む二者択一的方法ではなく、自然と技術と人の幸せな関係性を見出したいと思う。深い思慮もなく、歴史や伝統をおおざりにしたツケが、今、回ってきているのであって、精算の時期が来ているのだといえるだろう。」

バブル経済の最中に、葉は、一人「自然と技術と人の幸せな関係性」を見つめようとしていたのである。そして、だからこそ、同じ文章の末尾に、「町民の愛着や誇りを育て得るかどうかが最大の問題なのである」と記し、このアリーナの記憶がいつまでも人々の心に残ることを願ったのだ。その願いは、三〇年という時を越えて、確かなものとして今もそこにある、そう思えた。

記憶の建築

松隈 洋

小国町民体育館 1988年
愛着と誇りを育む木質空間



北側の正面外観



アリーナの南方向を見る

ナーを高橋誠一、伊東豊雄へと引き継ぎながら現在も継続中であり、すでに一〇〇件を超える建築が竣工している。

さて、今回再訪した小国町民体育館は、偶然にも、そのアートポリス事業の始まる同じ年に竣工している。果たしてどのような歴史を重ねたのだろうかと思いつつ訪れると、清新な空間が変わらずに息づいており、二十五年前の印象が静かに蘇ってきた。敷地は杉林に囲まれた小高い丘の上にあり、町の中心部から車でアプローチすると、杉

ガラス越しに順光に照らし出された木々の緑が、まぶしく輝いていた。決して高価な材料が使われているわけでもない。しかし、ここには、神々しいまでの凛とした品格を持つ空間の質が実現されている。しかも、それは、スポーツにこそしむ人々を讃えるかのように控えめな存在でもあるのだ。

設計者の葉祥栄（一九四〇年～）は、竣工時に、構造設計者の松井源吾（一九二〇～一九六六年）と共に開発した木造立体トラスの意義について、次のように記している。

松隈 洋

京都工芸繊維大学教授。博士（工学）。一九五七年兵庫県生まれ。一九八〇年京都大学卒業後、前川建築設計事務所に入所。二〇〇八年十月より現職。

デザイン・クリエイティブセンター神戸（KIITO）は、2012年にオープンして以来、デザイン、アート、食、まちづくりなどをテーマに積極的に市民を巻き込むワークショップやレクチャーなどを展開しています。今回はKIITOの近藤健史さんに建物の歴史や建築家に関わる「ちびっこうべ」についてご紹介いただきました。建物再生については次回詳しく取り上げる予定です。

市民の創造性を紡ぐ拠点 —デザイン・クリエイティブセンター神戸

近藤 健史（こんどう けんじ）

デザイン・クリエイティブセンター神戸 企画事業部門 マネージャー

大阪芸術大学芸術学部建築学科卒業。同大学院芸術文化研究科博士後期課程修了。同大学院助手、大阪成蹊大学芸術学部総合教育研究支援センター研究員を経て、2012年からデザイン・クリエイティブセンター神戸（KIITO）勤務。

生糸検査所からKIITOへ

神戸港は開港以来、国際貿易港として重要な役割を果たしてきた。現在でも神戸の中心である三宮から元町、そこから海沿いの地域には往時の繁栄を感じられる近代建築が多く残っている。そのなかで、神戸三宮フリーターミナル周辺、新港地区の景観を形成する建物のひとつであり、神戸税関の建物と対峙するように建つゴシック調の建物が、デザイン・クリエイティブセンター神戸である（写真4）。

建物中央部にあるアーチ形のエントランス両脇の柱が空に向かう、垂直方向を強調する歴史的建造物をコンバージョンした建物は、輸出絹糸の品質検査と格付けなどを行っていた生糸検査所であった（写真1）ことから、デザイン・クリエイティブセンター神戸はKIITO（キイト＝生糸）という愛称で呼ばれている。フラワーロード沿いに神戸税関と面して建つ一九二七年に建築された旧神戸市立生糸検査所（旧館）と、一九三二年に旧館の東に増築された国立生糸検査所（新館）は、生糸が日本の輸出総額の約四〇%を占めていたという昭和初期、生糸輸出産業の絶頂期に建築されており、建物そのものの意匠や造作も優れている。旧館のエントランスの上部には「黄金の絹を吐く蚕」をモチーフにしたとされるテラコッタの装飾（写真2）、旧館塔屋まで続く中央の階段にある「繭」をモチーフにしたとされる親柱（写真3）などは、この建物の歴史を伝えており、また、建物だけでなく残されている検査機器や什器、家具や備品も重厚なものである。

生糸の輸出減退に伴い役割を終えた生糸検査所の建物は、独立行政法人農林水産消費安全技術センターなどの時代を経



写真1 昭和初期の生糸検査の様子（『神戸生糸検査所史』神戸農林規格検査所、1982年から）



写真2 エントランスと上部のテラコッタ（撮影：伊東俊介）

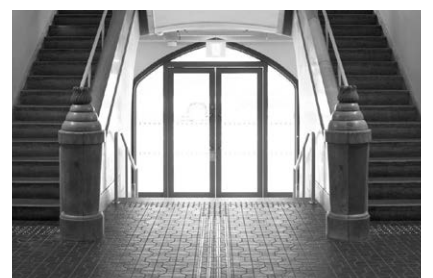


写真3 中央の階段の親柱（撮影：伊東俊介）

て、耐震強度の不足などから解体が検討された時期もあった。しかし、日本における近代建築の秀作として、また新港地区の景観形成における評価から、日本建築学会から保存要望書が出されるなど保存の機運が高まり、神戸市は二〇〇九年七月、神戸市都市開発公社より土地建物を購入、都市としてのアイデンティティを高める文化資産として保存活用することになった。

その神戸市の決断の背景には、二〇〇八年一月一六日、神戸市がユネスコ創造都市ネットワークのデザイン都市に認定されたことが大きい。旧神戸生糸検査所は、デザイン・クリエイティブセンター神戸として、「デザイン都市・神戸」のシンボル、そして創造と交流の拠点施設として保存活用されることとなった。

建物の歴史を残しつつ、 クリエイティブな場をつくる

新館、旧館を合わせた延床面積が、一三、七七九平方メートルに及ぶ大規模な建物の活用にあたっては、特長ある意匠が残る部分を中心に保存・保全を図るとともに、公共施設として必要な安全性等を確

保した活用が必要とされた。その方針においては、旧館中央階段の幅員不足、旧館三階部分の内装材料不適合などが建築基準法に抵触するため、同法第三条第一項第三号（適用の除外）指定を受けて進められた。なお、設計者や建物の変遷、改修の詳細に関しては次稿に譲りたい。

改修されて完成した施設には、市民の多様な活動の場としての大規模なホール（写真5）、ギャラリー、会議室といった大小七つのレンタルスペース、生糸検査所時代からの歴史や検査工程を実物の機器、写真や映像で紹介する生糸検査所ギャラリー、各種資料に加え全国のフリーペーパーやイベントなどの案内を集積し、配架するライブラリ、食について考えるプラットフォーム構築を目指すカフェなどを設置している。

また、創造的活動に携わる法人、団体、個人のオフィスとして供用するスペース「クリエイティブラボ」を擁することも特長といえよう。入居者にはKIITOや神戸市が実施する事業に協力いただくだけでなく、入居者同士の交流を通して分野や職種を超えた多様な事業の創出、展開を目指している。



写真8 ちびっこうべ2018 (撮影:坂下丈太郎)



写真6 ちびっこうべ2018 (撮影:坂下丈太郎)



写真4 KIITO旧館(1927年築)の外観(撮影:伊東俊介)



写真7 ちびっこうべ2018 (撮影:大塚杏子)

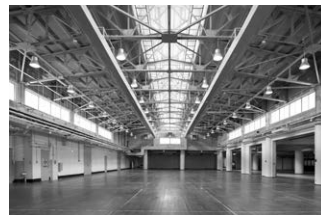


写真5 KIITO ホール (撮影:伊東俊介)

「十クリエイティブ」というコンセプト

わたしたちは、KIITOの活動のコンセプトとして「+（プラス）クリエイティブ」という言葉を掲げている。デザインやアートなどを用いて、プロジェクトや活動の魅力を高め、また、既成概念に捉われないアイデアや工夫を取り入れ、それらが抱える問題や課題を解決し、さらなる活性化を図るアプローチ手法と定義している。課題解決やまちづくりを、一部の専門家に任すのではなく、一人ひとりが自分の身の回りで創造性を発揮し、そして社会が抱える課題解決にも主体的に関わる、またそのような力があることを発見し、新しい神戸をつくっていく。

みんながクリエイティブになる。そんな時代の中になる。

KIITOのスローガンの実践とその積み重ねこそが、わたしたちの活動の中心と言えるだろう。

CREATIVE WORKSHOP ちびっこうべ

KIITOでは、施設の設置目的を実現するために多彩なイベント、レクチャー、ワークショップ、展示など年間二〇〇を超える自主事業を実施している。

なかでも、ユネスコ創造都市ネットワークへの加盟認定を記念した「KOBEDesignの日記念イベント」として遇数年に実施している子どもの創造性を育むワークショッププログラム「ちびっこうべ」は、二〇一二年のKIITOオープニングイベントとして初回を実施して以降、国

内外から高い評価を受けているシンボルイベントである（写真6〜8）。

小学校三年生から中学校三年生の子どもたちとクリエイターが、シェフ、建築家、デザイナーの三つの職業に分かれて、食をテーマに一緒にまちづくりを行う体験型プログラムである。

食を提供する店舗をつくる「ユメミセ」プログラムでは、市内外からの多数の応募から抽選で選ばれた子どもたちが、単なる職業の体験に終わらず、職能の理解と創造性の涵養を目的として参加する。ワークショップにおいては、建築家はスケールの理解やイメージスケッチ、図面や模型製作といった設計に関わるプロセスを子どもたちが行うだけでなく、建物ができる工程にどのような人たちが関わっているのか、その要素や役割についても考えが至るように導いていく。「ちびっこうべ」は、クリエイターを養成するものではなく、建築家を含むクリエイターの仕事に実際に触れ、専門家から直接教わりながら、自ら考え、自分たちの手でつくることに重きを置いている。

合わせて、さまざまな大人や学年の違う子どもたちとのコミュニケーションと共創を通して、新しいアイデアの発見、協同することでより魅力的なものを実現することができる充実感を獲得してほしいと願っている。

一〇月の夢のまちオープン期間には、神戸の食を提供する「ユメミセ」の他にも、様々な仕事やものづくりなどの体験プログラムが用意される。子どもたちは市民となって働き、給料として受け取った通貨「キート」で買い物をしたり、遊んだり、子どもだけのまちを楽しむことができる。

子どもたちは、未来のまちを主体的につくる役割を担うこととなる。「子どものまちは、神戸の未来」と謳っているように、これからの神戸、そして日本の未来を明るくできる、創造的な人材がここから育ち、活躍することを期待している。

その他の事業としては、「+クリエイティブゼミ」と呼ぶ人材育成プログラムとして、神戸市や神戸を中心に活動する団体が抱える課題に対して、市民の小グループでリサーチ、ディスカッションを行い、アクションプランの提案までを行うゼミ形式のプログラム、「食」について考え、学び、アクションを起こすためのプラットフォーム形成を目指すプログラムの実施に加え、スタジオレジデンスなどのアート関連のプロジェクトを実施していることも特長といえるだろう。

創造の交差点として

KIITOはこれまでの活動において、さまざまな人や世代が交流し、そこから生まれるアイデアや工夫で社会的な問題を解決し、新しい神戸をつくっていく手法を「+クリエイティブ」と定義し、そこから紡ぎだされた活動を積み重ね、発信してきた。活動の積み重ねによりみんながクリエイティブになること、そしてまちがクリエイティブになること。この場所が、そのための中心となること。かつて神戸港が世界中に生糸をはじめとする産物だけでなく文物をも輸出し、そして多様な生活様式や文化を輸入することで世界をつないだように、KIITOはわたしたちの活動と世界中の創造性をつなげることを目指してこれからも活動を紡ぎだしていく。

大阪府知事賞 豊中市立文化芸術センター



建築位置：豊中市曾根東町 3-7-2
完成年月：2016 年 8 月
主用途：劇場 展示室 会議室 カフェ
建築主：豊中市
設計者：(株)日建設計
施工者：大林組・河崎組特定建設工事共同企業体
撮影者：東出写真事務所

〈講評〉市民に長年親しまれてきた旧市民会館の建て替えで生まれたこの建物は、周辺の住宅地のスケールに合わせるべく軒高を 6m に抑え、沿道の壁面を分節化することで威圧感を軽減、親しみやすいデザインとしている。また、阪急宝塚線曾根駅からの眺めを意識し、季節ごとに違った色が見える植栽を屋上に配置する工夫も行っている。鉄筋コンクリート組積造でつくられた壁面は、ブロックごとに矚り度合いを変えることで、表情ゆたかなものになっている。
(審査委員長 久 隆浩)



大阪市長賞 中之島フェスティバルタワー・ウエスト

建築位置：大阪市北区中之島 3-2-4
完成年月：2017 年 3 月
主用途：事務所 商業施設 ホテル 集会場 美術館
建築主：(株)朝日新聞社 (株)竹中工務店
設計者：(株)日建設計
構造設備設計協力：(株)竹中工務店
施工者：(株)竹中工務店
撮影者：東出写真事務所

〈講評〉肥後橋の西北に文化の拠点が完成しました。旧ビルの弧の形状や外壁の記憶を残し、地下へも拡がり、東西を繋ぎ、交通機関へも配慮されています。今、街は、水平だけでなく縦に進化しています。是非、この東西の新しい縦の街に足を踏み入れて、美術館や文化ホール、最新の商品や情報を五感で味わってほしいのです。懐かしくて新鮮な、大阪が誇るランドマークとなりました。(審査委員 夏原見子)

審査員特別賞 近畿大学 ACADEMIC THEATER(1～5号館)／国際学部棟(18号館)



建築位置：東大阪市小若江 3-4-1
完成年月：2016 年 3 月
主用途：学校
建築主：学校法人 近畿大学
設計者：(株)NTT ファシリティーズ
施工者：(株)大林組
撮影者：(株)エスエス大阪

〈講評〉キャンパスの計画エリアの 4 つ角に 4 つの棟を配置し、キャンパス軸や景観との調和を図りつつ、囲まれた隙間におもちゃ箱のような小さなスケールのユニットをはめ込んでいる。外装には木格子や木化チップを組み込んだパネルを用い、建物の隙間や外構では、豊かな緑の心地よいランドスケープが展開する。多種多様な学生たちの出会いや語り、そこから生まれる様々なアクティビティを誘発する仕掛けが随所にデザインされ、質の高い空間が実現している。
(審査委員 指田孝太郎)

第38回大阪都市景観建築賞(愛称 大阪まちなみ賞)入賞作品

主催 大阪府・大阪市・(公社)大阪府建築士会・(一社)大阪府建築士事務所協会・(公社)日本建築家協会近畿支部・(一社)日本建築協会

◆表彰目的 周辺環境の向上に資し、かつ、景観上優れた建物や建物を中心とするまちなみを表彰することにより、個性と風格のある都市景観の形成に寄与するとともに、都市景観に対する意識の高揚を図ることを目的とする。

◆対象 大阪府域内の建物(平成25年8月1日から平成29年7月31日までに完成したもの)及び建物を中心としたまちなみ(平成29年7月31日までに完成したもの)で、一般の方々から推薦を受けたもの。

◆審査委員 ※50音順 審査委員長*

小栗 高弘(報道)

毎日新聞社大阪本社編集局社会部長兼科学環境部長

下村 泰彦(造園)

大阪府立大学大学院人間社会システム科学研究科教授

久 隆浩*(都市計画)

近畿大学総合社会学部環境・まちづくり系専攻教授

加藤 精一(建築)

(一社)大阪府建築士事務所協会理事

中嶋 節子(建築)

京都大学大学院人間・環境学研究科教授

藤本 英子(芸術)

京都市立芸術大学美術学部デザイン科教授

指田孝太郎(建築)

(公社)大阪府建築士会相談役

夏原 晃子(デザイン)

美術造形デザイナー

◆審査総評

本年の審査対象55件(建物51件、まちなみ4件)から、例年通り審査資料にもとづいた1次審査で12件を選出し、現地審査による2次審査を行った。最終審査では、豊中市立文化芸術センター、近畿大学 AC ADEMIC THEATER・国際学部棟、中之島フェスティバルタワー・ウエストの3物件は他の作品にくらべて評価点が極めて高く、いわゆる3賞候補はすんなりと決まった。この中で大阪市内の物件は中之島フェスティバルタワー・ウエストのみであり、自動的に大阪市長賞の受賞となった。残り2物件のうち、豊中市立文化芸術センターは、豊中市民を中心に広く府民に愛されている建物であるということで大阪府知事賞がふさわしいということになった。そして、建物デザインとしても優れているということもあり、近畿大学 AC ADEMIC THEAT

ER・国際学部棟を審査員特別賞とした。

大阪府知事賞を受賞した豊中市立文化芸術センターは、周辺の住宅地に配慮し軒高を6mに抑え、フライトタワーを奥に配置、長大になりがちな沿道の壁面を分節化するなど、周辺のまちなみに調和させ、親しみの持てるデザインとしている。また、阪急電鉄宝塚線から眺める風景を意識し、季節ごとに移ろう屋上緑化を施している。審査員特別賞を受賞した近畿大学 AC ADEMIC THEATERは1号館～5号館の5棟で構成されているが、周辺の低層市街地を意識し5号館を2層に抑え、小規模ユニットをランダムに配置することで路地的な印象を与えている。逆に、奥まった場所に位置する1号館は、地域のランドマークとなるようタワー状にしている。大阪市長賞を受賞した中之島フェスティバルタワー・ウエ

ストは、先行してつくられた東隣のフェスティバルタワーと合わせたツインの超高層ビル群が、地域のシンボルとなっている。また、東地区と西地区をむすぶ地下空間は、吹き抜けとすることで明るく開放的な空間となっており、地上階にいるような印象を与えている。

以上の3物件にとどまらず、今年度の受賞物件は、例年以上に周辺のまちなみを意識、配慮したものが多く、そうした意味では大阪まちなみ賞の趣旨に合致していたものとなっている。こうした傾向が来年度以降に受け継がれていくことを期待したい。



審査委員長 久 隆浩

審査風景



奨励賞 宇部興産(株) 大阪研究開発センター



建築位置：堺市西区築港新町 3-1 完成年月：2016 年 4 月
主用途：研究所 建築主：宇部興産(株)
設計者：大成建設(株) 関西支店 一級建築士事務所
施工者：大成建設(株) 関西支店 撮影者：(株)エスエス大阪

〈講評〉雑然とした工場施設の内にあって、顧客や地域の見学者を迎え入れる施設としても計画された研究開発拠点で、その建築としてのクオリティやランドスケープとの一体性が際立ち高く評価するものです。今後、更に一般市民への公開を進められるとともに、まちなみとしての工場建築群をリードしていくことを期待しています。 (審査委員 加藤精一)

奨励賞 関西電力病院



建築位置：大阪市福島区福島
2-1-7
完成年月：2015 年 5 月
主用途：医療施設
建築主：関西電力(株)
設計者：(株)日建設計
施工者：(株)大林組
撮影者：伸和 木原慎二

〈講評〉堂島川に面する街区のみどりの連続性をつくり出すとともに、高層部を 45 度振ることにより面のボリューム感を低減させ、縦ストライプの統一感ある建築景観を獲得しています。アトリウムから続く堂島川越しの眺望を活かした屋上庭園やポケットパークなど地域とつながる姿勢にも賛意を表します。 (審査委員 加藤精一)

奨励賞 大阪商業大学ユニバーシティ・コモンズ リアクト



建築位置：東大阪市御厨栄町 1-5-25 完成年月：2017 年 2 月
主用途：学校 建築主：学校法人 谷岡学園
設計者：(株)久米設計 大阪支社 施工者：鹿島建設(株) 関西支店
撮影者：(株)エスエス大阪

〈講評〉本施設は、河内小阪駅近くの共同住宅や店舗が密集する地区に、広大な緑地空間を提供するとともに、敷地を斜めに貫通するモールがゲートとなり歩行者を誘引し、新たな都市イメージと動線を生み出しており、地域のシンボリックな施設となっている。 (審査委員 下村泰彦)

奨励賞 天満・菅原町の蔵



建築位置：大阪市北区菅原町 1-2 完成年月：2016 年 8 月
主用途：倉庫 事務所 建築主：(株)北村商店
設計者：(株)kt 一級建築士事務所
施工者：太平建設工業(株) (六番蔵建替) (株)エムエス工務 (二番蔵改修)

〈講評〉近世には天下の台所・大坂を象徴する乾物問屋が建ち並んだ菅原町。現在も残る土蔵群が往時の記憶を伝える。こうした土蔵をひとつひとつ改修するとともに、蔵のまちなみに馴染む本社社屋を新築することで、まちの歴史を継承・顕彰することが目指される。継続的に事業が進展することで、蔵の町なみがよみがえることを期待したい。 (審査委員 中嶋節子)

奨励賞 吹田グリーンプレイス



建築位置：吹田市片山町 2-4-1
完成年月：2016 年 5 月
主用途：商業施設
建築主：JR 西日本大阪開発(株)
設計者：(株)プランテック総合計画事務所
施工者：大鉄工業(株) 撮影者：小林浩志

〈講評〉JR 吹田駅北側に広大な旧国鉄官舎群が広がる。駅に近い敷地から少しずつ民間活用が進む中、幹線の両側に誕生した商業施設である。低層の店舗にポケットパークや散策路が混じり合い、路地を巡るように店舗をまわることができる。外壁素材やサイン計画で図られている全体のイメージ統一も評価された。(審査委員 藤本英子)

緑化賞 コイズミ緑橋ビル



建築位置：大阪市東成区東中本 2-3-5

完成年月：2017 年 2 月

主用途：事務所

建築主：小泉産業(株)

施工者：(株)竹中工務店

設計者：(株)竹中工務店

撮影者：古川泰造

〈講評〉本施設は、住宅地が広がる敷地南側をセットバックすることにより威圧感を軽減し、階段状に設置された緑化バルコニーが集合住宅をイメージさせ、周辺地域との景観的調和を図っている。2 層以上の全てのバルコニーや屋上には、ヤマザクラやイロハモミジ、またクスノキ、シラカシなど淀川水系に自生する多様な落葉と常緑の広葉樹を混植させ、生態系にも配慮しつつ、緑の少ない住宅地側に対して季節感の創出と緑視率の向上に寄与している。

(審査委員 下村泰彦)

建築サイン・アート賞 TB-SQUARE



建築位置：大阪市中央区島之内 2-13-22

完成年月：2016 年 7 月

主用途：事務所

建築主：タカラベルモント(株)

設計者：(株)竹中工務店

施工者：(株)竹中工務店

撮影者：古川泰造

〈講評〉コーポレート・サインとコーポレート・カラーを大胆にアレンジした外観デザインが清々しい。ずれながら繋がる白と青のリング、上階のマッスな白い壁面、エントランスの自由な曲面の壁など、彫刻的な造形によって建築全体が構成される。美と健康をキーワードとする企業のショールームにふさわしいアイコンックな建築である。加えて歩道と建物敷地を緩やかにつなぐエントランス空間や、建物内の人々の動きを外観として表現したスロープなど、まちとの関係を意識していることが、この建物に優しい表情を与えている。雑多な建物が建ち並ぶエリアにあって、新しいランドマークの登場といえよう。

(審査委員 中嶋節子)

審査風景



理事会報告

文責 本会事務局

日時 一月十六日(水) 十六時〜十七時半
場所 本会会議室

出席 理事三名 監事二名

(1) 一二月の当期経常増減額は、収入二〇、八八五、四五六円、支出一七、五三五、七一二円、差引三、三四九、七四四円で、本年度累計の収支差引一六、七五九、二六六円を報告して承認されました。

平成三〇年度の収支決算見込みは、現在の試算で約四〇〇万円の黒字予測であること

を報告しました。
会費収入に係る会員数の減少は、予算通りの五〇名程度を見込んでいます。

登録閲覧事業は、一級・二級・木造の各合格者計が昨年比で約一〇〇名多く、収支にも反映される見込みです。

研修部門の第二二条研修は、企画数が多いが受講者数減が定員数から大幅に減少しており、予算比約二五％に留まりました。

C P D登録、定期講習は、予算を超える見込みです。

監理技術者講習は、大林組出張講習で受講者増となり、予算比一八五％です。

業務委託事業の試験事業、省エネ講習、大阪市高齢者住宅改修費給付事業および助成事業の景観整備事業は、それぞれ予算を若干上回る見込みです。

建築物耐震評価業務は、今後年度内の予約六件を含めて予算比約一六〇％の見込みです。

行政協力では、枚方市の罹災証明二次調査業務、泉佐野市の国庫補助事業及び特定空家業務の事務費二〇〇万円強の収入が見込まれます。

建築相談室から三十四

電話相談から 建築士とのトラブル

文 橋本頼幸

電話相談で建築士とトラブルになっているという相談は昨年一年間で三〇件ありました。建築士が一方的に悪いというわけではありませんが、相手が建築の素人であってもプロであっても、トラブルを回避する方法はなかったのかと考えさせられます。

宅地造成許可申請がおわらない

建築士に宅造許可申請を依頼したが、いつまでもおらず、相談者が市に問い合わせると、追加提出資料の不備で止まっているとのこと。建築士に「おかしいのでは？」と聞いたですもの納得のできる回答はなく信頼関係がなくなっていました。契約解除したい。すでに契約金額の七五％は支払っているが完成していないため、既払いを取り返したい。

仲介者を經由した契約

地下一階地上九階の建物の用途変更手続きを仲介された知り合いの建築士に依頼した。基本設計と実施設計の契約は、建築士の仲介者としている。相談者が仲介者ともめたところ、確認申請がはばおけるといふ段階で、相談者の了解なく確認申請を取り下げられた。施主に何ら説明もなく当該建築士の対応に問題があるのではないかと？

リフォームの設計業務内容に疑問

建築士に設計を依頼して、リフォーム工事を行い、ほぼ終わった。設計の仕事内容やリフォーム工事のできばえに疑問がある。図面や写真、契約書などを持参して面接相談を案内するも、有料であるため断られた。確認申請中の間取り変更

木造三階建ての住宅の確認申請中に、一階

の間取りを少し変えて大きくした。変更費用として二五万円追加が生じることと、困惑している。

契約前のキャンセル

自宅の設計を建築士に依頼したが途中でキャンセルした。契約書はない。そのとき高額の費用(電話口では額・明細不明)を請求された。適切な金額かどうかを知りたい。

一方的に腹を立てられた

工務店からの相談。工務店が設計と確認申請を設計事務所に依頼した。事前の手続きや確認申請に不慣れな建築士だったため、手続きに時間がかかり、なおかつ工務店からのアドバイスを行うも、そのことに腹を立てて、確認申請が終わる直前になって監理はできないといつて応じてくれない。検査機関は監理者のない申請では確認済証は出せないという。監理者を相当探したが、どこも他社の設計物件では受けられないと言つて見つからない。

クラックが何本がある

鉄筋コンクリート造の集合住宅。引き渡し後二ヶ月で廊下の天井から下へ垂直方向にクラックが何本か入っている。重点監理の報告書はあるが、設計監理者は信頼できない。

口頭契約での高額請求

リフォームの設計を、知り合いを通じて紹介してもらった北陸の建築士に依頼した。当初は工事費を五〇〇〇万円程度と聞いていたが、見積が一億を超えたため、計画を断念したが六〇〇万円の設計料を請求された。契約書はない。トラブルも様々

一方的な言い分もあるものの、説明不足やもめる前に回避する機会があったであろうものもあります。「明日は我が身」にならないように、できることはまだまだありそうです。

編集後記

北 聖志

年が明けてから寒い日が続き、体調など崩されていますが、一月は近所の小学校、公園での防災ワークショップやA E D講習会などが行われているのを見かけました。一月一七日に阪神・淡路大震災関連のニュースが伝えられると、当時の被害のことや、自分自身の状況が思い出されます。

今月の建築の射程では神戸三宮の湾岸にあるデザイン・クリエイティブセンター神戸(KHIO)の活動について紹介していただきました。実際にKHIOに訪問してその活動の記録を見たり、改修について話を聞き、神戸市がこの建築を再生して利用していることは素晴らしい取り組みだと思いました。大阪城公園内には公民連携事業として複合商業施設が建てられたり、インバウンド向けの土産物屋が出来ています。目先の利益ではなく、同公園内の旧大阪砲兵工廠を再生し、市民や子どもたちのために活用するなど、歴史の継承と将来への投資になることを出来ないものか、と思う次第です。

建築人 2019

監修	公益社団法人大阪府建築士会		
	建築情報部門		
編集	建築情報部門『建築人』編集部		
	部門長	飯田英二	
	委員長	牧野隆義	
	編集人代表	荒木公樹	
	編集人	河合哲夫	北 聖志
		曾我部千鶴美	橋本頼幸
		丸子勇人	茂籠一之
		若江直生	
事務局	山本茂樹	母倉政美	
印刷	中和印刷紙器株式会社		



和のしつらえ

千利休の心を受け継ぐ信楽焼手洗い器「利楽」と「SUTTO」シリーズのマットブラック洗面混合栓。水場に新しい「和のおもてなし」のご提案です。



中之島フェスティバルタワー・ウエスト 日建設計

中之島の歴史・文化・芸術を醸成するランドマークへ
2012年竣工の中之島フェスティバルタワーを第1期とする、200mのツインタワープロジェクトの2期計画。旧ビル(朝日新聞ビル・大阪朝日ビル)の弧を描く外壁形状を継承し、ページ系のタイルの暖かみある素材の記憶を質感ある大型煉瓦壁で再生するなど、ビルの歴史的なアイデンティティを現代に引継ぎながら、二つのビルの統一モチーフとして活かし、優美さと素材感を合わせ持つ、新しいランドマークビルを目指した。そして、中之島という地がビジネスだけでなく文化も育んできた歴史を受け止め、未来に向けて更に文化が醸成される場所になる事を願い、ウエストはオフィス・商業に加え、美術館・多目的ホール等の文化施設や、高さ200mからのパノラマビューを堪能できるラグジュアリーホテルCONRAD OSAKAを内包。足元の大ピロティ空間やサンクンガーデンなどのパブリックスペースを四ツ橋筋及び地下街に沿いダイナミックに配置し、街区間の地上と地下の回遊性を高め、1期計画で完成した音楽の殿堂:フェスティバルホールと合わせて、ビジネスと文化が立体的に融合するまち「フェスティバルシティ」が完成した。

撮影:ナカサアンドパートナーズ(表紙)・東出写真事務所(裏表紙)
第38回大阪都市景観建築賞大阪市長賞受賞作品

■プロフィール

江副 敏史(えぞえ・さとし)
1980年 京都大学工学部建築学科卒業後、日建設計入社
現在 同社フェロー役員デザインフェロー、京都大学・京都工芸繊維大学非常勤講師

勝山 太郎(かつやま・たろう)
1990年 早稲田大学大学院理工学研究科卒業後、日建設計入社
現在 同社設計部門 理事 グループマネージャー 設計部長

多喜 茂(たき・しげる)
1991年 金沢工業大学大学院修士課程終了後、日建設計入社
現在 同社設計部門 主管

小畑 香(こはた・かおり)
2010年 神戸大学大学院修士課程終了後、日建設計入社
現在 同社設計部門

■建物データ

設計: (株)日建設計
構造・設備設計協力: (株)竹中工務店
施工: (株)竹中工務店
所在地: 大阪府大阪市北区中之島3丁目2番4号
主要用途: 事務所/ホテル/飲食店舗/物販店舗/美術館/集会場 他
竣工: 2017年3月
構造規模: S造、SRC造、RC造
地下4階/地上41階/塔屋2階
敷地面積: 8,377.84㎡
建築面積: 6,106.48㎡
延床面積: 151,146.45㎡

